



Y.Hatanaka

THE KEISEI HAI

第65回 京成杯 (GIII)

1着 本賞 41,000,000円 付加賞 497,000円
2着 16,000,000円 142,000円
3着 10,000,000円 71,000円
4着 6,200,000円
5着 4,100,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 馬齢重量

2025.1.19 中山 小雨・良 芝2000m (国際) 特指

種馬	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1 ②	ニシノエージェント	牡3	57	津村明秀	1:59.9	10-10-11-6	35.4	472(+2)	49.40	千葉直人(美浦)	110
2 ⑫	ドラゴンブースト	牡3	57	丹内祐次	クビ	8-8-7-2	36.0	470(-2)	17.30	藤野健太(栗東)	109
3 ③	ミニトランサット	牡3	57	田辺裕信	1/2	14-14-14-12	34.9	468(+4)	29.60	杉山佳明(栗東)	108
4 ⑨	キングノジョー	牡3	57	C.J.ルメール	1/2	3-3-3-1	36.5	448(+4)	3.11	田中博康(美浦)	107
5 ⑭	バーティハーン	牡3	57	戸崎圭太	1 1/4	8-9-9-10	36.2	476(+4)	3.70	友道康夫(栗東)	106
6 ⑪	マテンロウムーブ	牡3	57	横山典弘	1	12-12-12-12	35.8	504(+12)	14.20	松永幹夫(栗東)	105
7 ⑩	シマサンブラック	牡3	57	佐々木大輔	アタマ	10-10-9-6	36.3	482(+18)	132.50	蛇名正義(美浦)	104
8 ⑥	センソップラッド	牡3	57	R.キング	%	5-5-4-2	37.0	458(-2)	19.90	斎藤崇史(栗東)	103
9 ⑬	バッシュソリッド	牡3	57	菅原明良	アタマ	13-13-12-12	35.9	478(+6)	67.60	久保田貴士(美浦)	102
10 ⑧	ゲルチュタール	牡3	57	三浦皇成	7	7-7-7-6	37.9	534(+14)	5.30	杉山晴紀(栗東)	101
11 ⑦	コスマストーム	牡3	57	秋山稔樹	2 1/2	5-5-4-10	38.5	502(+4)	77.80	北出成人(栗東)	100
12 ④	インターポーザー	牡3	57	斎藤 新	2 1/2	3-3-4-6	38.9	500(+14)	38.10	高野友和(栗東)	99
13 ①	タイセイリコルド	牡3	57	石橋 梢	1 1/2	2-2-1-2	39.9	486(+16)	15.00	小栗 実(栗東)	98
14 ⑤	ガルダイア	牡3	57	杉原誠人	ハナ	1-1-2-2	39.9	482(+12)	8.60	国枝 栄(美浦)	97

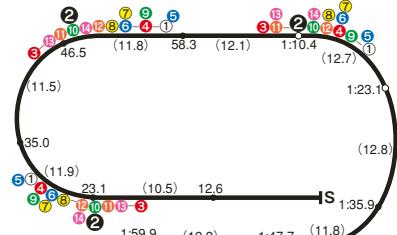
単勝②4,940円(11^{人気}) 優勝②960円(10^{人気}) ⑩490円(6^{人気}) ③980円(11^{人気}) 枠連②⑦10,230円(27^{人気})

馬連②⑩35,970円(64^{人気}) ワイド②⑩7,430円(62^{人気}) ②⑩3,950円(69^{人気}) ③⑩5,490円(51^{人気})

馬単②⑩77,110円(128^{人気}) 3連複②⑩3-⑩209,730円(275^{人気}) 3連単②⑩3-⑩1,727,970円(1,670^{人気})

5重勝①②⑩⑧⑩的中なし 対象競走：中山9R／中京10R／中山10R／中京11R／中山11R

〔キャリーオーバー：449,023,820円〕



通過タイム： 600m 800m 1000m
35.0 - 46.5 - 58.3 上り： 800m 600m
35.0 - 46.5 - 58.3 上り： 49.5 - 36.8

アラカルト

- 津村明秀騎手は京成杯初勝利。JRA重賞は通算19勝目
- 千葉直人調教師はJRA重賞初勝利
- イスラボニータ産駒はJRA重賞通算6勝目
- 単勝4,940円、馬連35,970円、ワイド9,500円、馬単77,110円、3連複209,730円、3連単1,727,970円は各式別における本競走の最高払戻金額

ニシノエージェント *Nishino Agent*

牡 黒鹿毛 2022.3.4生
北海道新冠町 カミイスタット生産
馬主・西山茂行氏 美浦・千葉直人厩舎
馬名意味・冠名+秘密業務で働く者

マルバイユIRE系 F9-f	
イスラボニータ 黒鹿毛 2011	フジキセキ 青鹿毛 1992
	サンデーサイレンスUSA ミルレーサーUSA
ピクトリアスマイル 黒鹿毛 2016	イスラコジーンUSA 鹿毛 2002
	Cozzene Isla Mujeres
	ノヴェリストIRE 黒鹿毛 2009
	Monsun Night Lagoon
	ジーター 青鹿毛 2006
	ダンスインザダーク マルバイユIRE

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4

INTERVIEW

上井武光代表(カミイスタット)

仕事の励みにもなります

母馬はジェイエス繁殖馬セールで購入しました。その時に受胎していたのがこの馬です。生まれた時から男馬らしい、しっかりとした馬体でいい雰囲気も持っていました。素直な性格で、手のかからない仔でした。今回はこの馬に向いたレース展開だったとはいって、自分の牧場からクラシックへ進めるような馬が出てくれたことは嬉しいですし、仕事の励みにもなります。



Photostud

牡 黒鹿毛 2022.3.4生
北海道新冠町 カミイスタット生産
馬主・西山茂行氏 美浦・千葉直人厩舎
馬名意味・冠名+秘密業務で働く者

新馬戦の2着を皮切りにしばらく惜敗の足踏みを重ねた本馬だが、当初の先行から徐々に脚質の幅を広げ、デビューや戦目に初勝利。余勢を駆って重賞に挑んだこの日は、ペースを見越し、展開も追い風に“出世レース”を鮮やかに差し切った。前2年間の勝ち馬と同様、今後は皐月賞へ直行。父イ

父イスラボニータ

北海道浦河町 (有)社台コーポレーション自老ファーム生産 中央25戦8勝(皐月賞G1、阪神C G2、マイラーズC G2、セントライト記念G2、共同通信杯G3、東京スポーツ杯2歳S G3、日本ダービーG1 2着)、最優秀3歳牡馬、18年から供用 [代表産駒] **ヤマニンサルバム**(新潟大賞典G3、中日新聞杯G3)、**トウードジボン**(関屋記念G3)、**ニシノエージェント**(父馬)、**ブルバレイ**(アルコンS G3)、**コスタボニータ**(福島牝馬S G3)、**バトルクライ**(すばるS・L、根岸S G3 3着、ユニコーンS G3 3着)、**シャドウフューリー**(リゲルS・L)、**オメガリッチマン**(京成杯G3 2着)、**ビヨンドザヴァレー**(ターコイズS G3 2着)

母ピクトリアスマイル

北海道新冠町 村上欽哉氏生産 中央3戦0勝、地方4戦0勝
ユーライナー(21 牝父アーリスティール)中央4戦0勝

ニシノエージェント

本馬(22 牝父イスラボニータ)中央5戦2勝(京成杯G3)
獲得総賞金52,127,000円
(23 牝父アーリスティール)
(24 牝父アドマイヤマーズ)

祖母ジスター

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央0勝、16年死亡
キングカラカラウ(12 牝父キングカメハメハ)中央3勝、地方0勝
アピーム(15 牝父ノヴェリストIRE)中央4勝(フリーウェイS、府中特別)
ピクトリアスマイル(16 前出)

曾祖母マルバイユIRE

伊、仏、英11勝(アスカルテ賞・仏G1、エミリオトウラティ賞・伊G2、セルジオクマニ賞・伊G3、エウビリ賞・伊L、ヴィットリオクレスピ賞・伊L、FIA欧洲生産者基金賞・伊L、ピエトロベッセーロ賞・伊L)、05年輸入、21年用途変更
ジーター(06 前出)

マルセリーナ

(08 牝父ディープインパクト)中央4勝(桜花賞G1、マーメイドS G3、阪神牝馬S G2 2着、ヴィクトリアマイルG1 3着)、**ヒートオンビート**(09 目黒記念G2)、**ラストドラフト**(京成杯G3)の母

グランデッツツア

(09 牝父アグネススタキオン)中央5勝(スプリングS G3、七夕賞G3、札幌2歳S G3、マイルチャンピオンシップG1 3着)、種牡馬

マルチスクリーン(14 牝父スクリーンヒーロー)不出走、**シカゴステイシング**(09 フェニックス賞G3、ファンタジーS G3 3着)の母

マルディランダ(20 牝父イスラボニータ)中央4勝(佐渡S、オーロC・L3着)、**着**(09)

一昨年はソールオリエンスが皐月賞へのステップとし、昨年はのちのダービー馬と菊花賞馬が1、2着を占めた京成杯。俄然、注目度が高まった今年は、ジャステインパレスの半弟にあたるキングノジョーと、デビューや戦目の未勝利戦を5馬身差で圧勝したパーティーンが3倍台のオッズで1、2番人気を分け、葉牡丹賞の2着馬ゲルチユタールが2頭に次ぐ支持を集めた。しかし中央勢力と目された面々は揃つて敗れ、人気薄の伏兵が上位を独占。単勝や3連単などの各式別で、レース史上の最高払戻金額が記録された波乱劇の主役を演じたのは、11番人気のニシノエージェントだった。

シテ、単勝や3連単などの各式別で、レース史上の最高払戻金額が記録された波乱劇の主役を演じたのは、11番人気のニシノエージェントだった。

波乱の呼び水となつたのはハイペースの展開。横並びの先行争いから抜け出した2頭、ガルダイアとタイセイリードが雁行して飛ばしたレースは、前半1000mの通過が58秒3と非常に速い流れで進んだ。キングノジョーは少し離れた3番手につけ、ゲルチユタールは追つつけ気味の手応えで中団を追走。一方、ニシノエージェントの津村明秀騎手はバーティーンを2馬身ほど前に見ながら、後方4番手で末脚を温存した。

4コーナーでは失速した前の2頭を呑み込み、キングノジョーが早くも先頭へ。後続の各馬も追撃にかかり、津村騎手も楽な手応えを保つたまま、先行勢の背後へ忍び寄る。迎えた直線、坂上で力尽きたキングノジョーを、早めに2番手に上がったドラゴンブーストがかわしたものの、ニシノエージェントはこれを凌駕する末脚を発揮。最後から追い込んだミニトランザットの強襲も抑えて勝利を飾った。

新馬戦の2着を皮切りにしばらく惜敗の足踏みを重ねた本馬だが、当初の先行から徐々に脚質の幅を広げ、デビューや戦目に初勝利。余勢を駆って重賞に挑んだこの日は、ペースを見越し、展開も追い風に“出世レース”を鮮やかに差し切った。前2年間の勝ち馬と同様、今後は皐月賞へ直行。父イ

伏兵たちが“出世レース”の上位独占